



杉並区立高井戸第四小学校

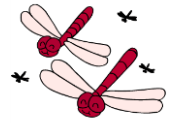
令和3年9月1日



ことばの教室だより

9月号

猛暑、コロナ感染拡大、オリンピックと色々なことがありましたが、ことばの教室のみなさんは、様々な体験、経験が出来た夏だったでしょうか。

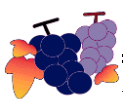


「Good Morning Athletes! Even if you don't get a medal, you're still the BEST!! So believe in yourself!」(「おはようございます、アスリートのみなさん! たとえメダルが取れなくても、あなたは最高です! だから自分を信じて」)

オリンピック期間中に路上に掲げられた、オリンピック出場選手に向けたメッセージらしいとのこと。 「たとえメダルが取れなくても」を色々置き換えてみると如何でしょう。

苦手なこと、自分が考えていたよりも上手くいかないことがあっても、貴方自身の価値は変わらないし、「最高」だよと、ことばの教室でも、返してあげたいと思います。

2学期もよろしくお願いいたします。



2学期の行事予定

※行事予定は、変更することがあります。

また、出張等が指導と重なる場合、個別にご連絡します。ご了承ください。

9月

- 1 (水) 2学期の通級開始
- 4 (土) 高四小土曜授業
- 6 (月) 高四小振替休業日
- 16 (木) 入級検討会議 (午後)
- 21 (火) 都難言協専門研修会 (午後)
- 25 (土) 高四小土曜授業

※在籍校訪問については、1学期に実施できなかったため、11月末の「在籍校訪問週間」を待たずに、訪問させていただく場合があります。よろしくお願いいたします。

<10月以降の主な予定>

10月

- 23 (土) 土曜授業
- 28 (木) 高四小就学時健診
- ※初旬 個別指導計画発送

11月

- 1 (月) 入級検討部会
- 19 (金) 高四小学芸会リハーサル、20 (土) 学芸会
- 22 (月) 高四小振替休業日
- 4 (木) ~17 (水) 在籍学級担任向け授業公開
- 24 (水) ~30 (火) グループ週間
- 24 (水) ~12/7 在籍校訪問週間

12月

- 11 (土) 高四小土曜授業・共生社会教育 (高四小5年生)
- 14 (火) 2学期の通級終了

お願い~感染症対策について~

新型コロナウイルス感染者が急増しています。ことばの教室でも、これまで以上に感染症対策に気を配っていきたくと思います。保護者の皆様におかれましても、下記について、ご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。なお、これまでと同様に、教室入口で検温を実施します。発熱のある場合は、入室できません。

- ①本人やご家族(ご両親やご兄弟など)に、風邪症状がある場合は、通級をご遠慮ください。
- ②通級学習中は、出来るだけ不織布のマスクを着用してください。
- ③ウイルス感染等により、在籍学級が学級閉鎖になった場合は、通級できません。

前期 個別指導計画・報告書について

4月から9月までの指導経過を記載した、前期分の個別指導計画・報告書を作成いたします。

保護者の皆様には、10月以降通級の際担当者からお渡しします。また在籍校には、10月初めに交換便にてお送りします。内容のご確認及び保管をお願いします。

偏食



通常の好き嫌いの範囲では収まらないような強い偏食傾向のある児童に出会うことがあります。学校生活の中で一番楽しみなはずの給食が苦痛で、学校への行き渋りが始まることがあり、理解と関わり大切さを考えさせられます。

今回は、「偏食」の理解と支援について、ご紹介します。

偏食の、代表的な二つの理由は、①感覚過敏 ②想像の特異性。①では通常の人には感じられない敏感さ・繊細さが強い人は、偏食になりやすい傾向がある。また、②では、特異な想像からくる“こだわり”ゆえに生理的に食べられない人がいる。しかし、例えば昆虫食が苦手な人は、「思い込み、我儘」なのか？と考えると、“特異な想像からくるこだわり”も、個人にとって大事な価値観・慣習だということを理解したい。

(「実践みんなの特別支援教育」9月号より抜粋)

発達障害 × 偏食 偏食はわがままではなく“体質”

偏食ってどうして起こるの？

感覚過敏



「コロケの衣がとげのように痛い」
「物をかむ音が気持ち悪くて耐えられない」など、
感覚の過敏がある子どもは、偏食になりやすい傾向がある。

想像の特異性



「初めて見る食材・料理は食べられない」
「赤い食べ物は気持ち悪い」など、
想像の特異性からくる“こだわり”ゆえに、
生理的に食べられないものがある子どももいる。

子どもの食生活を心配できるのは愛情深い証拠。保護者や教師をはじめとした周囲の大人たちが特性を正しく理解して、子どもの成長をサポートしていこう。

偏食への向き合い方

「偏食はダメ」という考え方から見直そう



バランスよく栄養をとってほしい、食べ物を粗末にしてほしくない…。真剣に子育てをしているからこそ、偏食に対して不安を感じている保護者や教師は多いはず。



しかし、偏食は食品アレルギー同様、体質の問題であることも多く、無理して食べると拒絶反応から嘔吐をしたり、トラウマになって食事自体の嫌悪感が増したりするリスクもある。



満点の栄養バランスを目指す必要はない。子どもの偏食で悩んだときには、まず「本当にその食材・料理を食べられないとダメなのか？ 別の方法で解決できないか？」を見つめなおしてみよう。

「お米1粒分」からチャレンジ!



「お米1粒分」からチャレンジ!

一方で、感覚の過敏さやこだわりは年齢とともに和らいでいく人も多い。偏食が起きている理由を探って、食感の問題であれば一緒に調理を試してみたり…。本人が興味をもって「試してみようかな?」と思えるような働きかけができるとうい。

